

かつての 活気に満ちた 町をもう一度

きのした
木下たつみさん(市ノ後)



生まれは下寺中ですが、3歳からは役場通り(市ノ後)で暮らしています。物心付いた時から役場周辺で遊び、その地域と共に育ちました。

昔の木山は活気に満ちた町で、肉屋や八百屋、食堂、銭湯、映画館、警察署、法務局や自動車教習所といったさまざまな施設が集まり、人々にぎわっていました。子どもたちも多く、小学校の同級生だけでも90人はいました。地元の祭りも大盛況で、木山初市では遠方から親戚が遊びに来てはごちそうを振る舞い、花火大会では姪たちと一緒に浴衣を着て参加するのがとても楽しみでした。70年たった今、人口は増え

ているものの、町のかつての活気は薄れてしまったように感じます。特に熊本地震やコロナ禍以降、家族と離れ離れになった私と同じように、孤独でつらい経験をした人も多いと思います。それでも、私たちは地域で築き上げたコミュニティで支え合い、困難を乗り越えてきました。

私は、笑って過ごせる環境が何よりも好きです。自宅をサロンの場として開放したり、民生委員としての活動を通じて、その環境作りのお手伝いを続けています。この町が、あの頃のにぎわいを超えて、家族や多くの人が集えるような魅力的な場所となることを願っています。

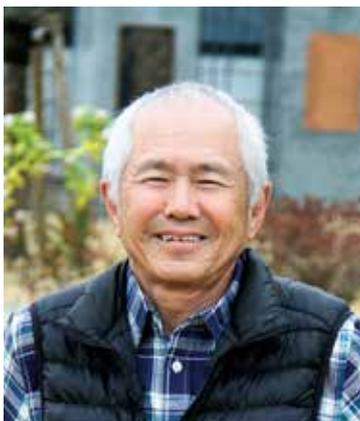
町と共に 歩んで70年

生まれも育ちも益城町の木下さん、
町で新たな挑戦を続ける山本さん。
益城町で今を生きる70歳の2人に話を聞きました。



人生も町も にぎやかで 楽しく

やまもと
山本美登司さん(中尾)



先代から実家と農業を引き継ぎ、中尾(赤井)で生活しています。中尾はとても自然豊かで、そうめん滝などの清流も自慢の地域です。

家業のコメ作りを引き継いだ後、平成30年頃から太秋柿の生産も始め、今では100本ほどの柿の木を管理するまでになりました。剪定から袋かけ、出荷まで全てを1人で行うのは大変ですが、益城町産印を付けて販売し、皆さんから喜びの声を聞くと、その労力が報われます。

5年ほど前からは、町シルバー人材センターでも活動しています。草刈りや道路パトロールを担当していますが、地域貢献だけでなく、自分の

健康にもつながり、とてもやりがいを感じています。さらに、活動を通じた仲間との会話は、常に新鮮で興味深く、毎回新しい発見があります。

70歳を迎え、人生の大半をこの町と共に過ごしてきました。とても住みやすい町ですが、町の特色や魅力が十分に知られていないと感じます。例えば、太秋柿も町の特産品として真っ先に思い浮かぶようになればと思っています。潮井自然公園や四賢婦人は他の自治体に引けを取らない魅力のひとつです。

次の10年後まで、もつとにぎやかで子どもたちが自慢できるようなまちづくりに町全体で挑戦していきたいです。